

月の夜

樋口一葉

青空文庫

村雲すこし有るもよし、無きもよし、みがき立てたるやうの月のかげに尺八の音の聞えたる、上手ならばいとをかしかるべし、三味も同じこと、琴は西片町あたりの垣根ごしに聞たるが、いと良き月に弾く人のかげも見まほしく、物ものがたりめきて床ゆかしかりし、親しき友に別れたる頃の月いとなぐさめがたうも有るかな、千里のほかまでと思ひやるに添ひても行かれぬものなれば唯うらやましうて、これを仮かりに鏡となしたらば人のかげも映るべしやなど果敢はかなき事さへ思ひ出でらる。さゝやかなる庭の池いけみづ水にゆられて見ゆるかげ物いふやうにて、手すりめきたる処ところに寄りて久しう見入るれば、はじめは浮きたるやうなりしも次第に底ふかく、此池このいけの深さいくばくとも測はかられぬ心地こゝちなりに成て、月は其そこの底のいと深くに住むらん物のやうに思はれぬ、久しうありて仰あぎ見るに空なる月と水のかげと孰れを誠まことのかたちとも思はれず、物ぐるほしけれど箱庭はこにはに作りたる石いもと一つ水の面おもにそと取落とりおとせば、さゞ波すこし分れて是れにぞ月のかげ漂たゞよひぬ、斯くはかなき事して見せつれば甥なる子の小さきが真似て、姉さまのする事我れもすとて硯すぢりの石いつのほどに持て出いでつらん、我れもお月さま碎くだくのなりとてはたと捨てつ、それは亡き兄の物なりしを身に伝つたへていと大事と思ひたりしに果敢なき事にて失ひつる罪得つみえがましき事とおもふ、此池このいけ

かへさせてなど言へども未ださながらにてなん、明ぬれば月は空に還りて名残もとゞめぬ
を、硯はいかさまに成ぬらん、夜なゝ影や待とるらんと憐なり。嬉しきは月の夜の客
人、つねは疎々しくなどある人の心安げに訪ひ寄たる、男にても嬉しきを、まし
て女の友にさる人あらば如何ばかり嬉しからん、みづから出るに難からば文にてもおこせ
かし、歌よみがましきは憎きものなれどかゝる夜の一言には身にしみて思ふ友とも成ぬ
べし。大路ゆく辻占うりのこゑ、汽車の笛の遠くひゞきたるも、何とはなしに魂あくが
るゝ心地す。

青空文庫情報

底本：「日本の名隨筆58 月」作品社

1987（昭和62）年8月25日第1刷発行

1989（平成1）年1月25日2刷

底本の親本：「一葉全集 後篇」博文館

1912（大正1）年6月

入力：葵

校正：もりみつじゅんじ

2000年11月6日公開

2005年6月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

月の夜

樋口一葉

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>